森林官からのおたより

福島森林管理署　常葉森林事務所　森林官　内海　洋太

阿武隈山系最高峰　大滝根山

当森林事務所は福島県の中通りに位置し、国有林野面積は2,851㌶と福島署管内では2番目に小面積ですが、スギをはじめとする人工林が多く、積雪量が比較的少ないため、保育間伐等の造林事業が通年にわたり実施されています。

また、当事務所管内の周囲には阿武隈山系最高峰の大滝根山（1,192㍍）や富士山を望める最北限の山として知られる天王山（日山1,054㍍）等の山々に囲まれています。大滝根山の麓では良質の白御影石が産出されるほか、鍾乳洞（あぶくま洞など）も存在します。

ヒノキのほだ木から発生したナメコ

近年、人工林の保育間伐が多く実施されるようになりましたが、伐り捨てられた材が何かに使えないかと思っていたところ、ヒノキの間伐材を利用したナメコの栽培を実験してみたいという栽培農家があらわれました。ヒノキによるナメコ栽培を実験段階で進めている業者がここ数年増えてきていることは知っていました。ここ福島でも挑戦してみようという人がいることにうれしくなりました。そこで、造林事業を終えた国有林野から保育間伐により伐り捨てられたヒノキ材を100本程度、副産物扱いで販売しました。今秋になって、その栽培農家が「出ました！」と、事務所にナメコの生えた切り株を持ってきてくれました。

今後、さらにヒノキの間伐材利用が進むよう、地元の方々に呼びかけていきたいと思っています。

私がこの仕事についたのは、平成20年の春です。縁あって中途採用で福島に赴任することになりました。それまでは、庭師、住宅を手がける木材会社で現場監督、それから自然ガイドと多岐にわたり仕事をしてきました。仕事が変わっても常に向き合ってきたのは「木」でした。森林管理局に採用になり、向き合うのはやはり「木」です。森林官になり、広大な国有林野を管理するようになって、自分の考え方一つで、大事な国民の財産に損失を負わせかねないこともあるんだなと気づいたときは、責任の重さと自分に何ができるだろうという不安感で独り動揺することもありましたが、今では仕事にも少しづつ慣れてきました。

これからも諸先輩方々の意見を拝聴しながら、今までの職で得た経験を加味し、より良い国有林野事業を続けられるよう努力していきたいと思っております。

伐り捨てられるヒノキ間伐材